【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年4月28日(2005.4.28)

【公開番号】特開2004-91741(P2004-91741A)
【公開日】平成16年3月25日(2004.3.25)
【年通号数】公開・登録公報2004-012
【出願番号】特願2002-258104(P2002-258104)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０８Ｌ　51/04
　Ｂ３２Ｂ　27/30
　Ｃ０８Ｆ 265/06
　Ｃ０８Ｊ　 5/00
//(Ｃ０８Ｌ　51/04
　Ｃ０８Ｌ　33:12　 )
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｌ　51/04
　Ｂ３２Ｂ　27/30　　Ａ
　Ｃ０８Ｆ 265/06
　Ｃ０８Ｊ　 5/00　 ＣＥＹ
　Ｃ０８Ｌ　51/04
　Ｃ０８Ｌ　33:12

【手続補正書】
【提出日】平成16年6月21日(2004.6.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２】
　（１）少なくとも１つの下記ゴム成分層（Ｉ）を内部に有し、かつ少なくとも１つの下記熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）を少なくとも最外部に有する、２以上の層からなる多層構造重合体粒子であって；
（２）ゴム成分層（Ｉ）は、アクリル酸エステル５０～９９．９９質量％、該アクリル酸エステルと共重合可能な他の単官能性単量体４９．９９～０質量％及び多官能性単量体０．０１～１０質量％からなる単量体混合物（ｉ）の共重合によって形成される重合体層であり；
（３）熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）は、メタクリル酸エステル４０～１００質量％及び該メタクリル酸エステルと共重合可能な他の単量体６０～０質量％からなる単量体（ｉｉ）の重合によって形成される重合体層であり；
（４）熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）のうち最外部に位置する層を構成する重合体について、ＧＰＣ法で測定された数平均分子量は３０，０００以下であり；
（５）ゴム成分層（Ｉ）の総質量と熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）の総質量との比は、層（Ｉ）／層（ＩＩ）において３０／７０～９０／１０の範囲であり；
（６）平均粒子径が１５０ｎｍ以下である
ことを特徴とする多層構造重合体粒子（Ａ）１００質量部と、
メタクリル酸メチルとこれと共重合可能な他のビニル系単量体との、前者／後者の質量比で６０／４０～１００／０の、（共）重合体であって、クロロホルム溶液中２０℃での極限粘度が３～６ｄｌ／ｇであるメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｂ）０．０５～１０質量部と

メタクリル酸メチルとこれと共重合可能な他のビニル系単量体との、前者／後者の質量比で８０／２０～１００／０の、（共）重合体であって、クロロホルム溶液中２０℃での極限粘度が０．1～１．０ｄｌ／ｇであるメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｃ）１～１００質量部とを
混合及び／又は混練して得られる熱可塑性樹脂組成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明はまた、上記熱可塑性樹脂組成物に、下記に規定するメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｃ）を配合してなる熱可塑性樹脂組成物、すなわち
（１）少なくとも１つの下記ゴム成分層（Ｉ）を内部に有し、かつ少なくとも１つの下記熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）を少なくとも最外部に有する、２以上の層からなる多層構造重合体粒子であって；
（２）ゴム成分層（Ｉ）は、アクリル酸エステル５０～９９．９９質量％、該アクリル酸エステルと共重合可能な他の単官能性単量体４９．９９～０質量％及び多官能性単量体０．０１～１０質量％からなる単量体混合物（ｉ）の共重合によって形成される重合体層であり；
（３）熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）は、メタクリル酸エステル４０～１００質量％及び該メタクリル酸エステルと共重合可能な他の単量体６０～０質量％からなる単量体（ｉｉ）の重合によって形成される重合体層であり；
（４）熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）のうち最外部に位置する層を構成する重合体について、ＧＰＣ法で測定された数平均分子量は３０，０００以下であり；
（５）ゴム成分層（Ｉ）の総質量と熱可塑性樹脂成分層（ＩＩ）の総質量との比は、層（Ｉ）／層（ＩＩ）において３０／７０～９０／１０の範囲であり；
（６）平均粒子径が１５０ｎｍ以下である
ことを特徴とする多層構造重合体粒子（Ａ）１００質量部と、
メタクリル酸メチルとこれと共重合可能な他のビニル系単量体との、前者／後者の質量比で６０／４０～１００／０の、（共）重合体であって、極限粘度が３～６ｄｌ／ｇであるメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｂ）０．０５～１０質量部と
メタクリル酸メチルとこれと共重合可能な他のビニル系単量体との、前者／後者の質量比で８０／２０～１００／０の、（共）重合体であって、極限粘度が０．1～１．０ｄｌ／ｇであるメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｃ）１～１００質量部とを
混合及び／又は混練して得られる熱可塑性樹脂組成物に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７６】
実施例３
実施例２において、メタクリル系熱可塑性樹脂（Ｂ－１）を極限粘度５．２ｄｌ／ｇのメタクリル系熱可塑性樹脂（Ｂ－２）（パラロイドＫ－１２５Ｐ、呉羽化学製）に変更した以外は実施例２と同様にして、フィルム化あるいはプレス成形し、評価した。評価結果を表１に示す。